



人とクルマのいい関係をめざして

9
2008 SEPTEMBER

●編集室：〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
 本田技研工業株式会社
 安全運転普及本部内
 電話 03(5412)1736
 ●編集人：千葉英雄
 ●年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)
 ※郵便振替 口座番号：00170-7-173273
 ※加入者名：(株)アストクリエティブ
 安全運転普及本部係

安全運転普及活動ホームページ <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

今月の
スポット

仲間と交流を深める
ことは、相手の立場
で考えることになり、
自分の価値感を
修正するきっかけに
なるのです。(特集より)

CONTENTS

- 特集：高齢ドライバーへの安全運転教育の普及をめざして ①
- より安全に運転を続けていただくために
教育最前線 ⑥ ②
- 高松市立紫雲中学校・自転車交通安全モデル校事業 / 関係機関・
団体の連携により中・高生の自転車マナー向上をめざす
- 私の提言 ④
- 太田博雄 / 高齢ドライバーに運転の自己評価技能を身につけてもらう
ことが必要
- 危険予測トレーニング(KYT) ④
- 第5回「先行右折トラックがいる時」(二輪車)
- TRAFFIC ADVICE—交通教育センターから ⑤
- 交通安全を考える—人・企業・信頼— / '08トラフィック・セーフティ・
フォーラムin埼玉
- SAFETY REPO ⑤
- Honda Cars 富山・親子安全教室 / 地域の子どもたちを事故から守る
ための四輪販売会社による交通安全教育
- NEWS REVIEW ⑤
- 第41回二輪車安全運転全国大会
- DOCUMENT EYE ②③ ⑥
- 高速道路で後部座席同乗者のシートベルト着用状況を観察する

特集：高齢ドライバーへの安全運転教育の普及をめざして

より安全に運転を続けて いただくために

2007年の高齢ドライバー(65歳以上)による交通事故は、1997年の2.08倍(75歳以上では3.12倍)となった。背景には運転免許保有者数が10年間で1.91倍に増加したことがある。こうした中、今年7月に(社)日本自動車工業会は高齢ドライバー向けの交通安全教育プログラム「いきいき運転講座」を開発。また、Hondaでも昨年5月から全国の交通教育センターで高齢ドライバーを対象に「Honda健康ドライブスクール」を開催している。高齢ドライバーによる事故を防止するための安全運転教育のあり方を探る。

活力ある長寿社会に向けて、高齢ドライバーの運転行動、安全意識、生活活性化(いきいき生活)を高め、アクティブな社会参加に少しでも貢献することを目的に(社)日本自動車工業会(以下、自工会)が、高齢ドライバーのための交通安全教育プログラム「いきいき運転講座」を開発した。開発にあたっては、専門家で構成する高齢者交通安全教育推進委員会(委員長 鈴木春男・自由学園最髙学部長)が企画。脳科学や社会的アプローチも取り入れ、実験教育の中で効果検証をしながら教材を作成したという。

このプログラムは、4種類の「交通安全トレーニング」と、脳機能を高めながら交通安全を学習する「交通脳トレ」で構成されている(2面参照)。交通安全トレーニングの各科目にはレベル1〜3の3段階あり、リーダー役のもとで、ワークシートやディスカッションを中心に進行する形式で、参加者の希望や必要に応じて異なる効果を持つトレーニングを選

★「いきいき運転講座」の教材



高齢者交通安全教育推進委員会の委員長を務めた鈴木春男・自由学園最髙学部長

「いきいき運転講座」の主な特徴

- 高齢ドライバーの方々リーダーや班長になって、自分たちの力で講座を進行する
- 話し合いを中心にして、いきいきと語り合い、学びあひながら、交通安全力を高める
- 基本的な脳機能向上と交通の危険を察知するための脳機能向上を図る「交通脳トレ」の導入
- 免許のない方も一緒に助手席、自転車、歩行者の立場で参加できる

扱し、取り組める構成となっている。

特徴の中でも最も注目されるのが、参加する高齢者の中からリーダー役を選び、高齢者だけで講座を進行できることである。委員長として開発にあたった鈴木春男さんは、「いきいき運転講座」には安全運転教育をきっかけに高齢者の「仲間づくり」を支援するという発想が基本にあるという。「以前、高齢者の安全意識について調査したところ、現住所での居住年数が長いほど安全意識が高く、短いほど低い傾向がみられました。長い方は地域の中に同じ世代の知り合いが多いのです。仲間がいるということは元氣のもとであり、社会的にも活動しているといえるでしょう。つまり、仲間をつくらせて、和気あいあいと話すことが安全意識を高める上では有効なのです。高齢者の集まりがある時に、その中の誰かがリーダー役となって、仲間交通安全のことを伝えていただきたいと考えました。」

専門家ではない人による進行を前提に

和気あいあいと話しあひで
安全意識が高まる

していることから、リーダー役の負担をできるだけ少なくするため、リーダー用のマニュアルを用意した。そこには、どのタイミングで何を話せばいいかという台本的な内容を記述するなど、マニュアル通りに進行していけば、誰でもリーダー役ができるように工夫されている。また、このプログラムは一回で終わらずに、レベルを上げながら繰り返してトレーニングできる構成になっているので、ある程度高いレベルの内容をクリアした受講者の中の誰かがリーダー役となって、別の高齢者の集まりなどで講座を開催することもできる。地域における交通安全教育のリーダー養成の役割も「いきいき運転講座」は担っている。

4種類の交通安全トレーニングのうち「いきいき運転・いきいき生活」は、導人的な役割をもつ。そのレベル1は、「いきいき運転講座」の基本と位置づけられており、参加する高齢者一人ひとりが自分の生活状況などを話すことで、参加者が互いのことをよく知り、仲間としての意識を高めてもらうことをめざす。また、「ヒヤリ体験を生かす」でのヒヤリ地図づくりも、地域における危険な場所を発見することと合わせ、話し合いながら共同作業を行うことで仲間意識を深めることを重視する。

「高齢者同士で親密に話し合う場では、『そういう考え方もあるのか』と他の人の価値感を受け入れやすくなります。仲間と交流を深めることは、相手の立場で考えることになり、自分の価値感を修正するきっかけになるのです。導入部分の『いきいき運転・いきいき生活』をやってみるだけでも安全意識は向上すると思えます。」

高齢者を対象にした
交通安全教室での活用を

運転免許を持っていない高齢者が参加できることも「いきいき運転講座」の特徴の1つだ。「危険予知トレーニング」「ヒヤリ体験を生かす」などではドライバーの視点だけでなく、歩行者や自転車利用者の立場から考える要素も盛り込ま

特集：高齢ドライバーへの安全運転教育の普及をめざして

「教え込む」のではなく、「気づいていただく」ための教育

れている。クルマを運転しない高齢者も話し合いに参加することは、ドライバーが歩行者や自転車利用者の立場を理解する上でプラスになると、鈴木さんは話す。

自工会では「いきいき運転講座」を高齢ドライバーの交通安全活動に取り組んでいる団体・組織向けへ案内し、申し込みがあったところには教材を無償で提供する。鈴木さんは各地域の企業でもこの教材を活用して、高齢者を対象にした「交通安全教室」を開催してくれることにも期待している。

「リーダー役を社員の方々にやっていただくのです。これは地域の高齢者を守るという企業の社会貢献活動的な側面もあります。社員が交通安全のリーダーになる自覚を持つことで、社員自身の安全意識が向上



「いきいき運転講座」は免許のない方も含めて、高齢者同士で話し合いながら進められる(写真は「いきいき運転講座」教材「進め方の手引き」より)

「いきいき運転講座」の内容

交通安全トレーニング

①いきいき運転・いきいき生活

いきいき運転といきいき生活をテーマに話し合っただき、知識を交換することで、安全行動と安全意識の向上を図る。



②危険予知トレーニング

運転席から捉えた交通場面の写真を見ながら、どこに危険がひそんでいるか話し合い、運転に大切な危険予知力を高める。



③ヒヤリ体験を生かす

参加者の居住地域の地図にヒヤリとした交通体験を書き込み、原因や対応を話し合い、地域の危険箇所の発見やヒヤリを防ぐ方法を考える。



④自分の運転を振り返る

ビデオで撮影した他のドライバーの運転行動を観察して、問題点を話し合うことで、自分の運転を改めて振り返り、運転能力、注意力を高める。



交通脳トレ

簡単な計算、音読、文字ひろい、間違い探しを実施することで、基本的な脳機能と交通の危険を察知するために使う脳の動きを高める。



(写真は「いきいき運転講座」教材「進め方の手引き」より)

するという効果もあると考えています」。さらに「企業を定年退職し、地域のために何かしたいと考えている方にも使ってもらいたい」と鈴木さん。誰でもリーダー役ができるというメリットを活かすことで、「いきいき運転講座」の可能性はさらに広がります。

自分で気づき、自分で直す ホンダ健康ドライブスクール

「いきいき運転講座」のトレーニングの1つである「自分の運転を振り返る」は、あらかじめ撮影した他のドライバーの運転などをビデオで見ながら、参加者全員の話し合いの中で自分の運転を振り返るという方法を採用している。実際に高齢者の方々に利用してもらった検証では、この方法で効果があることが確認されている。「他人の運転を見るだけでも有効なわけですから、自分の運転を撮影したビデオなら、本人の納得性もさらに高くなるのではないだろうか」と鈴木さんはいふ。

「一時停止場所ですべて止まっているつもりで、実は止まっていないことが多い。本人は止まっていると思いついていて、後から言われても納得しません。自分が運転している映像を確認することで、自分の運転の不適切な部分に気づくことができるのでしよう」と鈴木さんは評価する。このスクールは、プロのインストラクターがマンツーマンで指導にあたるので、高齢者が自分の運転の問題点に気づくよう、またそれに対する改善策や解決方法を具体的に受講者から引き出すことができる。

自分の運転映像を見て 運転行動を改善

「ホンダ健康ドライブスクール」の主な特徴

- 自分の運転行動を客観的に振り返る(自己観察法※)
- 受講者自身が答えを見つけ出す
- 問題行動がもたらす危険を模擬体験する
- 気づきを促す学習を日常生活でも行う

ダの全国の交通安全センター(もてぎ、和光、埼玉、浜名湖、鈴鹿、福岡、熊本)で「ホンダ健康ドライブスクール(以下、スクール)」がスタートした。このスクールでは、自分が運転している映像で振り返る方法を採用している。

具体的などのような内容か、アクティブセミナートレーニングパークもてぎで開催されたスクールの紹介しよう。受講者はオリエンテーションを受けるとクルマに乗車し、実車走行に入る。助手席にはインストラクターが同乗し、指定されたコースを運転する。車載されている小型の記録装置によって、ドライバーの運転映像などが記録される。



「Honda健康ドライブスクール」では受講者が運転している映像を記録し、その映像を見せながら、自分の運転を振り返ってもらう

実車走行が終わると、受講者は教室で記録された映像をもとに自分の運転を振り返る。教室前方のスクリーンに運転映像(進行方向正面の映像と、運転中のドライバーの動きをとらえた映像)と速度やブレーキ操作などの状態が映し出される。映像がコースの途中にある一時停止場所に近づくと、「速度の表示に注目してください。停止線の手前で0km/hになれば、しっかりと止まったことを示します」とインストラクター。速度が完全に0km/hにならなかつた受講者は、「ちゃんと止まっていなかった」とつぶやく。「止まった位置はどうですか」との質問に「クルマはボンネットの分だけ前に出ていて自分が思っている以上に交差点内にはみ出してしまいました」と受講者が答えた。この他に、交差点を通過する時、顔を動かして安全確認をしているかなどを映像でチェック。受講者からは「左折時の巻き込み確認が不十分であることがよくわかった」という声が聞かれた。

この後は危険予知トレーニング。生活場面や交通場面が描かれたシートを見て、危険だと思ふ箇所にシールを貼ってもらう。貼り終わったら、受講者同士が危険と思われる点を話し合う。演習後、同じコースで実車による確認走行と、教室でまとめを行うって終了となる。

このプログラムの基本的な考え方は、受講者自身の「気づき」を通して運転行動を改善していくことにある。問題点をただ指摘するのではなく、受講者自ら何が危険かを気づけるようにと、運転映像の中で気になる部分を見せて、気づきを促し、行動改善のきっかけを引き出す。正しい行動をし



危険予知トレーニングの教材を使って、受講者同士の話し合いも行われる

ている場合には受講者をほめることも忘れない。

そして、受講者に危険予知トレーニングで使用したシートや、安全運転に必要な知識をQ&A形式で学べる読本などを配布し、自己学習によりスクール後も安全意識できるようにサポートしている。

今後、日々の生活や仕事のためにクルマを運転しなければいけない高齢者は確実に増えていく。高齢ドライバーに少しでも長く安全に運転を続けてもらうために、自工会やホンダなど自動車業界全体として安全運転教育に取り組み、普及していく活動を広げようとしている。

●「いきいき運転講座」について

お問い合わせ・教材申し込み先：(株)コンセプト
受付時間：11:00～18:00(月曜～金曜、祝日を除く)
TEL：03-5770-7725 FAX：03-5770-7726
また、教材(ビデオ除く)は以下の自工会ホームページからダウンロードが可能。ビデオ(DVD)は自工会が運営する自動車図書館(東京都港区)で閲覧・貸出しを行っている。
<http://www.jama.or.jp>

●「Honda健康ドライブスクール」について

詳細は以下ホームページを参照。
教材の一部はダウンロードが可能。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/senior-training/>



※自己観察法=東北工業大学の太田博雄教授らが(財)国際交通安全学会などで研究成果を報告している手法。自分の運転をビデオで録画して観察し、「我が身振り返り、我が振り返す」手法